

箱根路険し 総合20位

経験糧に飛躍を



箱根駅伝出場選手
 前列左から1区・高瀬桂(経営2・鳥栖工高)、2区・茅野雅博(商4・鶴翔高)、3区・金久保遥(経営3・佐野日大)、4区・国増治貴(経営2・豊浦高)、5区・野下稜平(経済1・鳥栖工高)
 後列左から6区・南里樹(経営2・専大松戸高)、7区・成島航己(経営2・専大松戸高)、8区・水谷勇登(経営1・敦賀気比高)、9区・辻海里(経営4・相洋高)、10区・服部友太(経済3・専大松戸高)

7年ぶりの69回目の箱根駅伝に臨んだ陸上競技部は、10区を前に襷が途切れ、往路20位、復路19位の総合20位と悔しい結果に終わった。
 長谷川淳監督は「往路に関しては全く駅伝をさせてもらえず、箱根駅伝のレベルの高さを感じた。選手たちも緊張などで、本来の走りができなかったように思う。しかし、復路アンカーの服部友太が個人目標(15位以下)を達成した。……」

2区・茅野主将から3区・金久保に襷をつなぐ。写真提供・関東学連

専大スポーツ

【専大スポーツ】https://www.senshu-u.ac.jp/sports/

No. 414

専大スポーツ
 編集部
 公式WEB



Twitter @sensuponow
 Instagram sensuponow



初優勝を果たした木村=写真提供・ニッタクニュース

女子単 木村初優勝

女子シングルスで木村香純(経営3・四天王寺高)が初優勝を果たした。木村は今季からトリグ・木下アビエル神奈川に所属。大会直前に行われた11日の試合にも勝利し、4戦全勝と快進撃を見せているなか、今大会は「試合が立て続けにあるなか、今大会は一戦一戦強さでトーナメントを制した。」

関東学生卓球選手権 12月12〜18日、世田谷区・駒沢屋内球技場ほか
 シード権を持つ木村は4回戦から登場すると、難なくベスト8に進出した。準々決勝では今大会唯一のゲームポイントを奪われたが、4-2で勝利。準決勝、決勝はストリート勝ちし、まさに他を寄せ付けぬ圧倒的な強さでトーナメントを制した。

度は予選会通過を目標にちぎって走り出すことができた。中盤から後半にかけて、身体的にも精神的にもつらい時間があったが、最後まで全力で駆け抜け、現在の自分の力を最大限発揮することができたと思う」と自身の走り方を語った。
 茅野雅博主将は「今年(石井沙弥佳・文2)取り組んできたが、本戦は全く太刀打ちできず、力不足を痛感した。しかし、本戦を経験したこと、選手の意識が高まった。この経験を来年、再来年に生かしてほしい」と後輩たちに思いを託した。

女子72kg級 小林2位
 全日本レスリング選手権 12月17〜20日、世田谷区・駒沢体育館
 大会初日に行われた女子72kg級に小林奏音(ネット情報2・市立太田高)が出場。決勝で古市雅子選手(自衛隊)に敗れて2位に終わった。全日本の大舞台で存在感を示した小林は、「準決勝は、練習通りの形で

戦、目の前の試合だけに集中することができた。自分の卓球を落着いてできたことが優勝の要因」と振り返った。今後に向けて「トリグの試合が残っているので、良い結果でシーズンを締めくくることができるよう頑張る」と更なる飛躍を誓った。
 今大会の結果、木村は2021年度の全日本学生選抜卓球選手権への出場権を獲得した。(倉鹿野雅賢・経済2)

2021年に開催予定のアジア選手権の代表選考会を兼ねた今大会。高萩嬉ら(文2・光丘高)が女子シニアの5000リミネーション、1万リミネーションを制した。男子では、中川輝人が2000リ、1000リを制した。1000リを制したと振り返り、次の目標として、「思い切りの良いアタックを身につけるなど、ポイントを増やしたい」と語った。(塩澤京夏・文2)



賞状を持つ小林

高萩 3種目制覇 アジア大会代表に

2021年に開催予定のアジア選手権の代表選考会を兼ねた今大会。高萩嬉ら(文2・光丘高)が女子シニアの5000リミネーション、1万リミネーションを制した。男子では、中川輝人が2000リ、1000リを制した。1000リを制したと振り返り、次の目標として、「思い切りの良いアタックを身につけるなど、ポイントを増やしたい」と語った。(塩澤京夏・文2)

3種目で代表選手の資格を得た。1000リは僅差での3位に終わり、「長距離では2位に差をつけることができたが、中距離で負けてしまい、全種目優勝できなかったことが悔しい」と述べた高萩。「次の大会では全種目で1位となり、完全優勝でアジア大会につなげたい」と語った。

男子では、中川輝人が2000リ、1000リを制した。1000リを制したと振り返り、次の目標として、「思い切りの良いアタックを身につけるなど、ポイントを増やしたい」と語った。(塩澤京夏・文2)

快走する高萩(1万リポイント&エリミネーション)

優勝を目指した男子だったが6位に終わった。1、2回戦は30点差以上の大差で快勝。準々決勝で前回決勝で敗れた筑波大と対戦。互いに譲らぬ展開が続く、延長戦にもつれ込んだ。エースの西野曜(経済4・近大附属高)をファウルアウトで欠きながらも必死に食らいついたが、60-64で敗れた。5〜8位トーナメントでは青学大に64-62で勝つも、5位決定戦で近大に70-71で敗れた。女子は1回戦は山形大を93-46で圧倒。しかし2回戦で今シーズンのリーグ戦女王である白鷺大に敗れ、ベスト16に終わった。(岡本真凜・経営3)

・国立代々木競技場 第二体育館ほか

中学校にシャトル寄贈 バドミントン部



体育会の日、生田キャンパスを訪れた菅中学校の大塚伸明教諭に、部員がシャトルを手渡した。写真。(岡本真凜・経営3)

今年度はコロナ禍により、同イベントが中止に。バドミントン部が毎年行っていた両区の中学校バドミントン部との練習会もできなくなった。そんな状況の中、小松崎瑛士(経済2・常総学院高)、遠藤理彩(文2・聖ウルスラ学院英智高)を中心にシャトルの寄贈を企画した。「私たちが貢献できることはないかと部員全員で考えた(小松崎)。大家教諭と連絡を取り、提供する」となった。(村山健人・商3)